

主張



た起死回生の一手が韓国への進出でした。親

私の住んでいる香川県東かがわ市は別称「うどん県」でよく知られる。当地で手袋産業が盛んです。当地で手袋が製造されたのは今から130年ほど前で、百年企業も現存します。そんな手袋産業も池田勇人の所得倍増論あたりから工賃が上がり、斜陽化が始まりました。その時親方

称がとつ

た製造会社を小さいながらも

韓国の人々が忘れることはあ

一日も早くアベノミクスを

①利用者2割負担の対象範囲

に化身させたのです。韓国へ

技術指導に行った古者は、異

者がいくら詫言っても恨みを忘

を失った被害者家族は加害

③ケアマネジメントの利用者

口同音に韓国人は真面目で良

く働く人達だったと言います。

の心情を忘れ、ムンジェイン

合いに臨み、日韓関係が修復

④多床室の室料負担

韓国でも経済が発展し、工

賃が上がってくると親方は中

国へ工場を移し、現在はベト

品の不買運動が起り、何十年

調しながら、来年の通常国会

方や職人が韓国へ渡り、縫製

技術を教えて現地生産に成功

した。これは手袋界の斜

陽化に歯止めをかけたばかり

で議論の攻防が行われている

でなく、手袋屋と呼ばれてい

にっこり笑って

日韓関係の修復を

香川シニア会長 水野博

その攻防の主な課題とは、

10月19日、JAM本部会議室において、本年度第1回の連携強化懇談会を開催しました。現役からは安河内会長、中井書記長、川野、椎木両副書記長、木村組織グループ長、JAMシニアクラブからは三役7名全員が出席しました。



第1回連携強化懇談会を開催

組織拡大、政策制度課題を中心に論議

冒頭、安河内JAM会長

より2023年春閣方針と

2025年参院選組織内候

補擁立にふれての挨拶があ

り、JAMシニア大山会長

からは地方シニアの組織状

況や来年国会審議となる介

護保険法改正に向けた取り

組みについての報告があり

ました。このあと、組織拡

大と政策制度課題をテーマ

に、気候変動問題について、

現役、シニアで共通した取

組みを行うこと、役員OB

会を地協ベースで立上げ、

シニアクラブの会員拡大に

資すること、JAM機関会

議で改めて組織拡大の協力

要請を行うこと等について

協議しました。

主要議題の活動方針の具

体化については、組織活動

事例集の発行、組織拡大に

関するJAMへの協力要請、

介護問題学習会の開催、2

025年参院選の取組み、

環境問題への具体的行動等

について確認しました。確

認した内容は、12月8日開

催の第1回幹事会に提案さ

れます。

津田弥太郎さん

「旭日重光章」を受章

JAM出身で元組織内参

議院議員の津田弥太郎さん

が、秋の叙勲で「旭日重光

章」を受章されました。2

004年から2期12年にわ

たり参議院議員を務め、働

く者の代表として主に労働

政策や社会保障政策の分野

で縦横無尽の活躍をされた

退職者連合

介護保険制度学習会

日本退職者連合は11月16日

の第2回幹事会終了後、講師

に淑徳大学の結城康博教授を

迎え、介護保険制度に関する

学習会を開催しました。

講師は、人生100年時代

で団塊の世代が後期高齢者世

代になる以降は介護労働者の

不足が大きな問題になること

は明らかであって、処遇も含

め介護労働者の確保をどうす

るかが最大の課題であると強

調しながら、来年の通常国会

での介護保険制度改定に向け

ての論点は、そうではなく、

介護保険が使いにくくなる給

付減・負担増の課題が審議会

で議論の攻防が行われている

と述べられました。

その攻防の主な課題とは、

①利用者2割負担の対象範囲

拡大、②軽度者サービスの地

域支援事業への移行(要介護

1、2の自治体事業への移行)、

③ケアマネジメントの利用者

負担の導入(ケアプランの有

料化)、④多床室の室料負担

などです。



岐阜 第22回総会を開催

傍島征夫 通信員



10月29日第22回定期総会をワークプラザ岐阜にて、新型コロナウイルスが未だに終息しない中、感染予防対策として参加者全員マスク着用、手指消毒、会場では社会的距離を確保し換気等を配慮し、来賓7名他22名の参加で開催しました。

はじめに長澤会長より「2022年度より私と事務局長が新任となりスタートしたが、コロナ感染数が多い中、感染対策をとりながら多種多様な事業を無事終えることが出来た。また、第26回参議院議員選挙においては比例区で村田きょうこ氏を当選させていただいたことひとえに、会員のご支援ご協力の賜物で、改

めて御礼申し上げます」との挨拶がありました。

続いて、2023年度活動方針案と予算案の提案、審議を行い、各議案とも原案どおり承認されました。2023年度の取組みとして、本部シニアクラブと連携し理解を深めながら活動を実施していく。来年4月は統一地方選挙が行われるので、現役が推薦する候補者を支援、協力していく。機関紙「すこやか」の発行や本部機関紙への投稿も例年どおり実施し情報交換を深めていく等を確認

第22回定期総会 葉結成20周年記念祝賀 会を開催

蝦名秀信 通信員

千葉シニアクラブは定期総会を10月18日(金)午後2時〜4時、結成20周年記



しました。

その後、永年JAM岐阜シニアクラブ会長を勤められた北村務さんが退任されるため、会長より感謝状が授与されました。北村さんから「20年間会長職を勤めることが出来たのも、会員の皆様並びに本部シニアクラブからのご支援ご協力の賜物です。今後とも益々JAM岐阜シニアクラブ会員皆様のご健康とご発展をお祈り申し上げます」との御礼の言葉を述べられ、会員一同拍手で感謝の意を表しました。

念祝賀会を4時〜6時千葉市ホテル「ポートプラザちば」で行いました。出席者は来賓含めて43名でした。

総会では、会員拡大、政策制度要求の取組みと実現活動の取組み、現役との連携強化、平和運動の強化、会員相互は楽しくやるなど2023年度方針は満場一致で採択され、長岡会長の団結がんばろうで終わり、その後千葉シニアクラブ結成20周年記念祝賀会となりました。8名の来賓の挨拶を受けました。待つこと、石の上でも3年、祝賀会出来て良かったとの感慨が先行し、喜びも控えめ

の雰囲気でした。

しかしながら、祝賀会が2023年度の活動のスタートの花添えとなりました。国内の政治、経済が「ロシアのウクライナ侵略」「旧統一教会問題」等も絡みまさに、混沌の状況であります。

千葉シニアクラブはシニア世代が安心して暮らせる社会を目指して頑張っていきます。

富山 第23回定期総会 を開催

松長 照 通信員

コロナ感染症は落ち着きを見せているが、大事をとって参加者数を絞り、10月29日富山シニアクラブ第23回定期総会を役員・会員29名でボルファートとやまで開催しました。

尾島事務局長から、「コロナ禍もあり各組織は予定された行事も開催されなかった。そのため、



会員数の減少となつてい

る。徐々に活動を再開し会員の拡大につなげていかなければならない。また、JAM石川シニアクラブとの交流会も再開させたい」等の発言があり、2023年度活動方針を満場一致で確認しました。

総会終了後に懇親会をおこない、本年度の活動に関して多くの意見をもたつた。交流が少なくなつたことに寂しさを感じており、役員・幹事は、感染対策をしつつ参加者を徐々に増やす企画を実施する必要性を感じました。

第22回定期総会 結成20周年記念祝賀 会を開催

事務局長 加藤照雄

神奈川シニアは、10月14日(金)横浜山下町の「ワークピアヨコハマ」にて、第22回定期総会、

結成20周年祝賀会を開催。

祝賀会は、本来昨年時に開催する予定が、第5波のコロナの流行により開催を断念し今年に延期して行いました。全代議員が参加する総会は、3年ぶりの開催となり来賓、シニア役員、代議員合わせて61名の参加規模となりました。開催時期の10月中旬が、コロナの流行

が小康状態となり開催できました。

総会では大山JAMシニア会長、池田神奈川シニア連合会長の挨拶をいただき、2022年度活動報告・決算報告、2023年度活動方針・予算案・役員が決定されました。10年間勤められた新田尊士会長が退任され、新たに飯田耕治郎氏(JVC・KW)が就任しました。

総会後、結成20周年祝賀会を開催、この10年間で活躍された16名の功労者を表彰しました。祝賀会は、有志によるハワイアンダンスの予定でしたが、コロナ対策のため中止しました。久しぶりの全代議員の参加により会員間の談笑が続き、楽しく親睦を深めました。今年度は、会員間の懇親のため行事の復活を行います。

